

秋田勉強会 カウントダウン企画！

前編

ゆらり秋田☆浪漫飛行



案内人 吉田理紗さん☆平元美紗緒さん



↑案内人の理紗さん(左)と美紗緒さん(右)

7月23日(土)、アルヴェ(秋田市民交流プラザ)を会場に、「第8回東北OM勉強会」が開催されます。皆さん、参加申込みはお済みですか？

ということで、東北OMとして、初の秋田進出を盛り上げるべく、6月号から2回にわたり秋田の魅力を紹介していただきます。

初めて知る「秋田の魅力」を発見できるかもしれませんね♪

ではでは、理紗さん&美紗緒さん、ご案内よろしくお願いします！



秋田の「祭り」と言えば、やっぱり『竿燈』！



理紗: あ、秋田の祭りと言えばやはり「竿燈」だね！…毎年8月3～6日に開催される秋田を代表するお祭り！

か、かつ、竿燈の中で一番大きい大若(おおわか)は重さ50キロ！それを額・腰・肩などにのせる妙技は迫力満点だね♪
風にゆれる稲穂を表現した竿燈って、美しいですよね～

美紗緒: ちょ、ちょっと、ちょっと！理紗ねえさん！

せっかく竿燈祭りの衣装に着替えて、気合いノリノリも分かるけど、ちょいとりキミ過ぎですよ(笑)
イントネーションもおかしくなってるし！リラックス、リラ～ックス♪ゆる～い感じでいきましょうよ♪

理紗: あ、…うん。そうだね。ゆ、ゆるい感じでね。

國松: ちょいと、待ちんしゃいっ！…ま、間に合ったあ。…あなたの心に匍匐前進☆

モトジ～こと國松@酒田市です！きつと、理紗さんがキンチョーしてるんじゃないかと思って、後方からの援護射撃にやって参りました!!! 何しろ、OM勉強会ハンチョーですから！OM初の秋田進出、秋田勉強会！テンション上がっちゃりますよお！

本間: みなとまち酒田からアニョハぜよお～！理紗ちゃん、美紗緒ちゃん、長老こと本間ですよ。いやあ、秋田の「竿燈まつり」、いいですねえ。祭りと聞くと、いくつになっても心躍るもんだのう！

理紗: ありがとうございます！ちょっとホッとしたような先が思いやられるような…。

そうそう、竿燈まつりの話に戻しますが、このお祭りは、東北3大祭りの1つになっていて、国の重要無形民俗文化財にも指定されてます。

そもそのルーツは、およそ250年前の宝暦年間。ちょうど、本間さんが生まれた年あたりですよ？

はじめは真夏の病魔とか、睡魔払いといった素朴な行事だった「ねぶり流し」が更にグレードアップして、五穀豊穡の願いを込めて、ちょうちんに火を灯し、まるで「黄金の稲穂」が風に揺らぐような現在のスタイルに変わったみたいですよ♪

本間: よお～知つとるぜよ！ちょいと腰を痛める前までは、「竿燈祭りに本間あり！」と、名を馳せたもんじゃ。なつかしいのお。わしの勇壮な姿見たさに秋田中の女性たちが集まってきたもんじゃ。

腰さえ…この腰さえ痛めておらんかったら、理紗ちゃんや美紗緒ちゃんにも、わしの雄姿を見せることができたんじゃないか？この腰さえのお…。

土崎の人々の「魂」がこもったお祭り

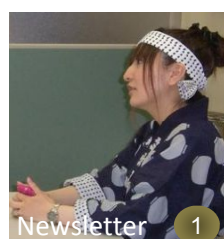
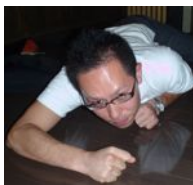
土崎「港曳山祭り」は要チェック！



美紗緒: …そろそろ話を戻した方がいいですね。

理紗: そうだね。では、私、吉田の地元、土崎と言えば、毎年7月20日、21日に行われる「港曳山祭り」！各町内ごとに作製した山車(だし)を綱で荒々しく曳きながら町を横断します！

美紗緒: へえ～、以前から気になってたんですね。港曳山祭りの話になると、おっとり系の理紗さんが一変しちゃんもんね(笑)。やっぱり、土崎の血が流れてるんですね♪





理紗:・・・そうかなあ。でもホントに土崎の人はこの祭りにすべてを懸けていて、大人は祭りの前後はしっかり仕事を休み、祭りに参加する子どもには学校から「祭り公欠」の許可が出ちゃうんです！この2日間は、町の中を気合いの入った男集が練り歩いていて、ちょっと怖いですよ(笑)

美沙緒:いいですねえ。思わず見惚れちゃうかもしれませんね♪
秋田と言えば、秋田美人が有名だけど、男性もなかなかの男前が揃ってますもんね♪



國松:ちよいと、待ちんしゃいっ！

「男前」に反射的に反応してしまいました！この言葉は、まさに「酒田の男」のためにあるようなものです！

どうですか、爽やかに刈り上げたヘアスタイル、眼鏡が知的さをさりげなく演出し、そして、女ごころをくすぐるオデコのテカリ☆！



↑ 昨行われた「全国曳山サミットin土崎」での巨大山車

理紗:ぜひ、7月20～21日の土崎「港曳山祭り」をチェックしてくださいね！

國松:・・・まったくペースを乱さんとは、・・・なかなかヤルぜよお。

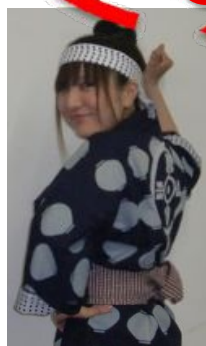


郷土を何とかしたい！そんな想いから始まった男鹿ナマハゲロックフェスティバル！

美沙緒:続いては、男鹿市の「ナマハゲロックフェスティバル」を紹介しましょう！

理紗:本間さん、モトジくん、ご存知ですか？

國松:「男鹿のナマハゲ」といえば、いわゆる「泣く子はいねがあ〜」というアレっすよねえ。



本間:よお〜知つとるぜよ！泣く子はいねがあ〜のアレやろ？

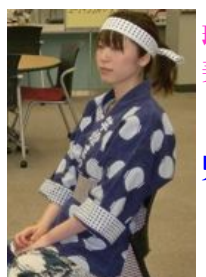
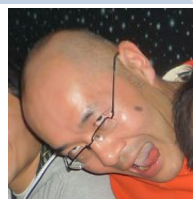
東北OMのイベントでもちよいちよい見かけるぜよ！

ありやあ、まっことヤバいぜよ！子どもばかりか、大人でも震えが止まらんぜよ！

ん？・・・だからアレやろ。泣く子はいねがあ〜のアレやろ。

・・・だから、アレやろ。無修正・渡会くんの話やろ。

泣く子はいねがあ〜！(炎)



理紗:美沙緒ちゃん、淡々と進めていきましょうね。

美沙緒:・・・理紗さん、ちょっと怖いですよ。スマイル、スマイル☆

ではでは、この男鹿ナマハゲロックフェスティバルについては、秋田メンバーである素敵男子の児玉くんから紹介していただきましょう！

児玉:皆さん、こんにちわ！男鹿を愛するギャングラーこと児玉寛希です！（児玉くん情報は、9ページ「OMの素材」をご覧ください！）

このナマハゲロックフェスティバルは、元気がない、明るい話題がない、若者がいないの「三ない」の故郷、男鹿市を何とかしたい！という菅原さんの想いから始まったものです。

「誰かがやるのを待つのではなく、こんな田舎でもできるんだ、ということを証明してみよう」と実行委員会を組織し、男鹿ナマハゲロックフェスティバルの歴史がはじまりました。

理紗:代表者である菅原さん一人の想いから動き始めたんですよ。

児玉:はい、今年は、かりゆし58やモンゴル800、ドラゴンアッシュやシャカラビッツ、その他多数のアーティストが参加します。更に、ナマハゲ太鼓でお馴染みの「なまはげ郷神楽」が地元男鹿代表として参加します！



昨年のポスター（ロックです☆）↑

美沙緒:・・・菅原さんを中心に、故郷の男鹿市を何とかしたい！って想う方々がこのビッグイベントを支えているんだね♪

理紗:そんなナマハゲロックフェスティバルの軌跡を勉強会当日、児玉くんから紹介してもらおうんだよね。

児玉:はい。任してください！故郷の男鹿を愛する者として、ぜひ皆さんにこのストーリーを知ってもらいたいです。

今年は勉強会の翌週7月30日(土)、船川港内の特設ステージで開催しますので、ぜひお越しください！

美沙緒:今からチケット予約しなきゃ！予約♪予約♪予約♪

本間:わしゃ〜今、猛烈に感動しとるぜよお〜！故郷の男鹿を想う気持ち、その想いを共有する仲間たちとの行動力。勢いだけじゃなかあ！児玉君のような若い者をもつき動かす企画力！すばらしかあ！モトジよお、おまんもこれぐらいせなあかんがぜよ！

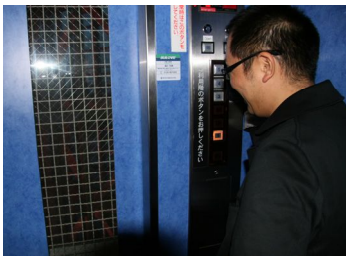


國松:放っといてつかあ〜さい！いいですよお〜。どうせ、・・・どうせ、・・・どうせ、おいらはただのデコがテカるだけの男ですよお〜。児玉君みたいに爽やかな笑顔もできませんよお〜。今夜は、もう静かに一人、ワインでも飲みますきい。

本間:そう言わんと。サクッと刈り上げたそのヘアスタイルも知的さを演出するその眼鏡も、ほどよくデコがテカるところも素敵ぜよ。これは、松永も認めるところぜよ。

・・・そういえば、松永はどこ行きよった？？？





↑ 景色を楽しむことができないM氏。

國松: あっ!! やべえ! 集合場所、間違えて教えちゃいました…

たぶん、今頃、セリオンの展望台に向かっているかも…。

本間: そりゃ、まづいぜよ! 柄にもなく**高所恐怖症の松永**をそんなところに向かわせたらあかんぜよ!

わしや、知らなかったことにしてつかあ〜んさい。なっ、モトジー、頼む!

國松: そりゃないっすよお〜! 本間さ〜ん!

松永: …………… **(怒)**

美沙緒: ええ加減にしていつかあ〜さいっ!!

危うくこのコーナーをハイジャックされるところでしたよ。理紗さん、分かってます?

理紗: 私、午後10時には寝なきゃいけないので、そろそろ……。

美沙緒: どんだけ**マイペース**なんですか! (笑)

情熱的なサンセット!

日本海に沈む夕日はサイコー!

理紗: 私がオススメするのは、やっぱり日本海に沈む夕日です。

綺麗な夕日を見ることができた日は、思わず「東に住む人は〜幸せ〜♪」という歌を思い出しちゃいますね♪♪

美沙緒: いいですよえ〜。私も夕日が沈む浜辺をよく**ダーリン**と手をつなぎながら歩いたもんですよ。**ウフッ♪**

理紗: 秋田を代表する夕日絶景ポイントと言えば、男鹿市の入道崎ですかね。

児玉: はい! 男鹿半島の最北端、北緯40度線上にある**入道崎**からの夕日は**絶景**ですよ。

この象徴である灯台は「日本の灯台50選」にも選ばれてます!



國松: ……なんか紙面の構成が別枠っぽくなってきてるんですけど…。大丈夫すかねえ…

本間: 編集者の思惑に負けちゃいかん

ぜよ! どうせ、まともにメッセージを発信したく

ても、事実は捻じ曲げられてしまうき! 開き直っていくしかないやろ!

國松: では、うちのペースで秋田を紹介しますか!

本間: おお! デコがいい具合にテカッてきよったぞ!

國松: 絶景ポイントといえば、忘れちゃいけないのが**寒風山**からの

眺めですよ〜♪思い出すのお…。

展望台からは360度の風景を楽しむことができるし、パラグライダーのメッカにもなってるんですよ。

あそこに立つと、何だかこう…風に乗って、こう…**鳥のように飛べるんじゃないか!**なんて思えますもん。

本間: おまは飛べはせん!

まあ、確かに風景は素晴らしなあ。きっと町並みや山々、広大な海が夕日に朱く染まる様は心奪われるだろうの。理紗ちゃんと一緒に観たいのう♪

國松: いやあ、それは僕が空を飛ぶより難しかあ。

きっと、夕日もいいでしょうけど**夜景もサイコー**ですよ☆

天王町を超え秋田市街へと続く光の湾曲の夜景…。

時間がゆっくり経過する中で、もう2人の間には言葉はいらない…。

そんな夜景をバックに見つめ合う僕と彼女…。

そして、…そして…僕は…

…って、なんで薄れていくんすか!

(怒)



旬な男鹿の海の幸を堪能あれ!

吉田イチオシはウニ丼!

理紗: 男鹿の入道崎に行ったらぜひ海鮮丼を!

なかでも私吉田がオススメするのは、やはりウニ丼ですね。

その他にも旬な海の幸が豊富なので、ぜひ食べ歩きしてほしいですね♪



↑ あなたは誰とこの夕日を見たいですか♪



老舗の隠れた逸品を見逃すな!

グルメストアフクシマのコロッケ!

理紗: 男鹿つながりで、グルメなネタを1つ!

男鹿駅から徒歩5分の肉屋さん「グルメストアフクシマ」のコロッケは**最高!**

なんとと言っても**大正7年から続く味!**

揚げたてを出してくれて、コロッケ嫌いな私がばくばく食べられちゃうんです♪

このコロッケを買うために秋田市内からわざわざ出かける人もいるぐらいなんですよ♪

美沙緒: へえ〜、男鹿でコロッケ。

新鮮な海の幸しかイメージないけど、**隠れた逸品**があるんですね♪ 今度、だーりんのために買いに行こう♪

理紗: ここはお肉とお惣菜の専門店で、当然、お肉も鮮度が高く、自家製のお惣菜は全て手作り。野菜もできる限り地場産の安全性の高い食材を使用してるんだって。

それでいて値段もリーズナブル☆

美沙緒: なるほど。リピーター率が高いのも納得ですね。ぜひ老舗の隠れた逸品を堪能しなさい☆



名物

燻製の香りが絶妙な逸品！



秋田名物いぶりがっこを味わうべしっ！



理紗: 次に紹介するのは、秋田名物の「いぶりがっこ」です。オススメしていただくのは、滝本法明さんです！

滝本: こんにちは。なぜか上司に「**ハンドルの壊れたボルシェ**」と呼ばれてる滝本法明です。（プロフィールは10ページ「OMの素材」をご覧ください☆）

やはり秋田名物といえば「**いぶりがっこ**」でしょう！

美沙緒: 私も大好きですよ。燻製の香りが絶妙な沢庵の漬物ですよ〜

滝本: 鋭いですね、美沙緒さん。昔は「いぶり漬け」と呼ばれてたようですが、秋田弁で漬物のことを「がっこ」と呼ぶことから、いつしか「いぶりがっこ」と親しまれるようになったんですね。

國松: 沢庵ということは、やっぱり大根の漬物のことを言うんですか？

滝本: 國松くん、いい質問ですね〜。

確かに主流は大根。ですから多くの方が大根の漬物をイメージすると思いますが、私滝本がオススメするのは、**にんじんのいぶりがっこ**。地元秋田ではこれも昔から食べられてきたんですよ。

歯ごたえがあるのに加え、にんじん本来の甘みと、独特の香ばしさがおいしい逸品ですので、ぜひご賞味あれ！

本間: にんじんのいぶりがっこ、まっことウマイぜよお〜！

こりや、もう我慢できんぜよ。おばちゃん、お酒や、お酒！**ポン酒**持ってきてえ！

…そう、それぞれ、一番高いやつ！



名物

秋田を代表する郷土料理と言えば…

そりゃあ、きりたんぽでしょ！

理紗: 「いぶりがっこ」もいいですけど、「秋田の食」と言えば、やはり**きりたんぽ**！

米をすりつぶした物を杉の木の棒に巻き、囲炉裏で焼き目をつけたものを切って、**比内地鶏の出汁で鍋にする**という、何だかよく考えると不思議な工程を経た食べ物です♪

美沙緒: おいしいですよえ、きりたんぽ！**徳島から北上1000km**の末、秋田に嫁いできて、こんな食べ物があるんだあ！と**ビックリ**しましたよ！

理紗: 観光地では、焼いたものに味噌だれを塗った「味噌たんぽ」が売られてるけど、実は秋田の人はあまり食べないんだよね。きりたんぽと言えばやっぱり「**鍋**」に限ります！



本間: おばちゃん、きりたんぽはやっぱり「**鍋**」だって。

だから、さっきの味噌たんぽをキャンセルで、鍋にしちゃってえ〜！おーい、おばちゃん、聞いている？

國松: ちよつ、ちよつと本間さん、秋田まで来てそんな無茶言っちゃダメですよ。

酒田の町と違って、「酒田の本間家」は通用しませんよ。酔っぱらうと、「**本間家の若旦那**」になっちゃうんだもの。…あつ、おばさん、キャンセル無しで構いませんから！

太田: きりたんPOu!!!

本間・國松: !……誰じゃ？

理紗: ……すみません、たぶん利本荘市の太田良行さんです。素敵な方でしょ♪実はちゃんとしている方なんです。詳しくは6ページのメンバーズコラム「木の実あつめ」をご覧ください♪



7月23日 (Sat)、秋田勉強会

こんなメンバーで企画しております！

秋

魅力満載！

秋田さけ!!



理紗: 「恩師である大森先生を秋田にお呼びしたい！」。そんな**中嶋チーフの飲み会**での一言から始まった秋田勉強会。

美沙緒: 「やりましょう！」と後藤さん(山形市)からGOが出たものの、まったく下地のない秋田メンバー。

理紗: 勉強会開催決定後に運営メンバーを集めるという、**ドラクエのような手法**で企画を進めてます♪

美沙緒: イベントに向けて、秋田紹介の前編ということで、掲載させていただきましたが、ぜひ次回も秋田メンバーおすすめの魅力を紹介しますので、**後編**もお楽しみに！

メンバー一同: こんな私たちが企画する秋田勉強会をきっかけに、ぜひ私たちの郷土：秋田さ“**け**！”(秋田弁で、「秋田に来てね」の意)

"今"だからこそ、飛び出そう！ そして、つながろう！ 第8回勉強会 in 秋田 ～飛び出す つながる はじめの一步～

あなたのこころの中にある小さなタネ。
地域に飛び出そうという"想い"が詰まった小さなタネ。
今、その小さなタネと一緒に芽吹かせよう。
そして、その一粒一粒の根をこの秋田の地でつなげよう。
あなたのこころの中にある小さなタネ。
そのタネの殻を破る小さな一步。それがきっとここで見つかる。



いよいよ第8回勉強会in秋田の開催まで1ヶ月を切りました。もう参加申込みの手続きはお済みでしょうか？

今回は、東北OMとしても初の秋田県を会場とした勉強会。これまでも東北圏域の各都市を会場にイベントを開催していく中で、多くの仲間と出会い、そしてその絆が少しずつ広がってきました。

ぜひ、この秋田勉強会の開催をきっかけに、同じ想いを持った人たちのタネを芽吹かせられるようなイベントにしたいですね♪

日時 7月23日 (Sat) 14:00～17:45

会場 アルヴェ 4F 洋室C
(秋田市民交流プラザ)

タイムスケジュール (JR秋田駅東口直結)

- 14:00 オープニング
- 14:30 基調講演
「こんな地域の担い手であってほしい！」
～時代・地域・自己形成～
講師 東京大学名誉教授 大森 彌 氏
(休憩 名刺交換タイム)
- 15:40 事例紹介
①「それは一人の一步から始まった！」
～男鹿なまはげロックフェス開催まで～
②「災害ボランティアに参加して～学生の視点から見た被災地の現状・そして被災者支援～」
③「一人の想いから始まった！」
～4.29さくらこまち115おかえりなさいプロジェクト～」
- 16:15 参加者同士の意見交換(バズセッション)
「職域の垣根を取り払って、つながろう！」
そして一緒に飛び出そう！
- 17:15 個人ワーク～明日から踏み出す私の一步～
- 17:45 閉会
- 18:30 交流会(※別会場)

参加料 一般 1,500円(お土産付き)
学生 500円(お土産付き)

交流会 一般4,500円 学生4,000円

申込み ①参加者氏名、②勤務先・学校名(学年)、
③連絡先E-mail、④交流会参加の有無、⑤エクスカーション
への参加の有無を記載の上、
yoshi.g1972@gmail.com(山形市役所 後藤好邦)までお申込みください。

勉強会、交流会ともに、会場の都合上、定員がありますので、お早めにお申込みください。

Round 1 基調講演

『こんな地域の担い手であってほしい！』 ～時代・地域・自己形成～



東京大学名誉教授 大森 彌 氏

今、求められる地域の担い手とは？行政、民間企業、NPO職員や学生など、職種を超えて、行政と民間の協働によるまちづくりに向けて、私たち自身がどう在るべきか。
大森教授からのメッセージを伺う中で、自分自身に問い直してみる貴重な時間になるのではないのでしょうか。

Round 2 事例紹介

男鹿を元気にしたいという一人の青年から始まった男鹿フェス、震災からの復興に向け、今できること！という想いから災害ボランティアに参加する学生、そして東北新幹線全線復旧によってさくらこまちが帰ってくる喜びや感謝の想いから始まったプロジェクトを紹介します。

それぞれの第一歩を踏み出したストーリー、そしてその想いをぜひ、感じてください。

Round 3 意見交換

あなたの心の中にある「飛び出したい！」という想い。でも、どうしたらいいのかわからない…。

そんなありのままの気持ちを互いに語りあってみませんか。

その答えは見つからないかも知れません。でも、ここで互いに語り合うことで、小さな気づきや絆が生まれるかもしれません。

それは、明日から踏み出すあなたの一步にきっとつながる！



Round 4 交流会

勉強会終了後、会場を移し、秋田の旨い肴と

おいしいお酒を囲みながら、参加された皆さんとの交流会をおこないます。

勉強会とはまた一味違う東北OMの雰囲気を感じてみませんか(笑)

Round 5 エクスカーション



市民参加ワークショップで作成した「ぐるっと文化財マップ」を使い、ガイドボランティア「秋田ふるさと案内人」さんおすすめのコースをぶらり散策。秋田を代表するお祭り「竿燈」の見学と体験もありますよ。

お昼は、農家さんがつくった美味しい漬け物とおにぎりをご用意！

のんびりゆくり、身近な秋田を体験するツアーです。

秋田の文化、街並みをぜひ、一緒に散策してみませんか♪



木の実☆あつめ

メンバーの知られざる趣味や特技、活動などへの思い、そんな素敵な“木の実”を紹介します。

色も形も違う色んな木の実をあなたの心のポケットに・・・

草創期のアマチュアリズムから脱却し、行政に対向的な独自の提言力を発揮するNPOへ！

秋田県由利本荘市 NPO法人矢島フォーラム 太田 良行 さん

◇「お役所の職員」とは違う、活力ある公務員の姿があった！

秋田県由利本荘市のNPO法人矢島フォーラム理事長の太田良行です。もとは東京で教育コンサルタントをしていました。4年前に秋田に戻って目下「N活」専従です。

昨年の6月に東北OMのメンバーになりました。きっかけは、政策研究大学院(東京)で講義を受けたことのある椎川忍さんの東北公益文科大学(山形県酒田市)での講演。これを企画したのが東北OMでした。

東北OMに集う若手公務員のみなさんの活力にはいつも圧倒されています。同時にふだんNPOとして接触している「お役所の職員」とはちがった公務員の姿を見ることができて、とても新鮮に感じています。実際、東北OMに集う若い公務員の方々がこれからお役所仕事の中核になって活躍してくれることを楽しみにしています。



↑ ↓どっちがホントの太田さん??



◇様々な課題に対峙する時代。

これをチャンスと思い、進取の精神でチャレンジしてほしい！

地方分権、新しい公共、協働、はてはNPMまで、昨今の公務員はこれまでにない局面に立たされています。多様で新しい住民ニーズ、積年積み残されてきた行政課題、そして第三セクターの伸長と「小さな政府化」していく自治体。

これらの問題や課題は、ひと昔前のように、上司のいうことに従っていればいい、前例に倣えばいいという態度では解決できません。

でも、これってやりがいのある仕事。若手公務員にはチャンスとも考えられます。現在の行政が抱えている課題には、シニアもポストも関係ありません。若手公務員も彼らと課題に対して同じ距離に立っているように思えます。周囲におもねることなく進取の精神でチャレンジしてもらいたいです。

◇草創期のアマチュアリズムから脱却し、自主・自立、そして行政に対向的な独自の提言力を持つNPOへ！

NPOにもいくつか課題を感じています。

NPO法が成立してまだ10年ちょっと。はやく草創期のアマチュアリズムから脱却して、それぞれのミッションに応じた専門性を身に付けなければなりません。

とりわけ、行政側の「協働」論を、腰を落としてしっかり受け止めなければならないと考えています。行政と同じ大きさの車輪となって地域を前進させるためには、NPOは自立的、自主的でなければならない、さらに行政に対して対向的な独自の提言力をもたなければなりません。

◇「外部評価」で専門性と提言力を発揮する矢島フォーラム！

矢島フォーラムは「外部評価」で専門性と提言力を発揮しています。一昨年には秋田県の政策外部評価を実施、昨年は県内の大学生・院生たちと「政策評価研究会」を立ち上げ、今年からは5月から湯沢市の公的施設「湯沢ふるさとふれあいセンター」の外部評価を受託・実施しています。

7月には報告書を提出し、その後県職員の研修会での発表、湯沢市自治協議会主催のシンポジウムでの基調講演などを予定しています。

◇矢島フォーラム

平成の大合併で、地域情報が少なくなったことを危惧し、インターネットなどを活用した情報通信、まちづくり事業を展開することを目的、2006年に設立。

情報発信・まちづくり事業を主眼とした活動する一方、矢島町の歴史遺産の紹介、継承・発展への活動、更には秋田県内では数少ない政策提言。政策評価もミッションの一つとして活動。

昨年11月、創立5周年を記念し、講演会・シンポジウムを開催。

【外部評価】

2009年度秋田県政策外部評価団体に。更に昨年度から由利本荘市の外部評価委員会のメンバーとして貢献。秋田県内では先駆的な由利本荘市の外部評価委員会を先導。

また2010年、県内の大学生たちに呼びかけ、「政策評価研究会」を立ち上げ、市民への学びの場の提供、評価手法の研究など、更なる飛躍を目指し活動を展開中。

【町の歴史遺産の継承活動】

2010年、地域の良さを再発見し、それを資源として、地域の元気を取り戻す企画として、矢島高校生徒を対象にチャレンジワークを実施。

23年度のプロジェクトでは、地元の歴史遺産(根城館)を地域資源としてどう活用できるかを考えていく予定。



【プロフィール】

1951年旧矢島町生まれ。早稲田大学大学院法学研究科修了。東京で教育コンサルタントとして40年間活躍。2006年に矢島フォーラムを設立し、2008年に帰郷し、NPO活動を展開、現在に至る。



わがまち魅力探訪...

トキが舞う「エコアイランド佐渡」

～世界に誇る佐渡島の自然・里山・歴史・文化～

案内人 新潟県佐渡市

笠井貴弘さん・加藤留美子さん・長尾啓介さん

佐渡市は、新潟から約60キロメートルの日本海に浮かび、沖縄を除けば日本最大の離島です。面積は855平方キロメートルで、東京23区の約1.4倍あります。

トキが舞う美しく、環境にやさしい「エコアイランド佐渡」では、現在、3つの世界遺産登録・認定を目指しています。

佐渡島の変化に富んだ大地から生まれた自然や里山、歴史・文化は世界に誇れるもので、この3世界遺産はすべてが深く結びついています。

1. 世界ジオパーク認定

佐渡の大地は、金銀鉱床の成因や日本海誕生、佐渡島隆起などの地質がすべてを目で見て学べる公園であり、「金と銀の島」佐渡をたどれば、日本海3千万年、佐渡島3百万年の大地と人々の暮らしがわかります。

国内認定を平成25年、世界認定を平成27年に目指しています。



↑ 海岸段丘(外海府北部ジオサイト)



↑ 金山の道遊の割戸

朱鷺と暮らす郷米や佐渡の天然プリ、米粉などをすべてを「佐渡産」にこだわった“新・ご当地グルメ”の第一弾が昨年7月7日にデビューしました。

島内の8店舗で味わうことができ、10月には「1万食」を達成しました。



プリカツと佐渡天然プリカツ丼
(おいしいですよ・長尾談) ↑

2. 世界遺産登録

世界的にも類のない規模の金銀山と金銀採掘の歴史や採掘技術の進化の過程は、極めてよく保存されており、膨大、正確な記録としても残存しています。

佐渡で生産された金や金貨幣は、江戸幕府から明治政府の重要な基盤をなし、金本位制を基準とする国際経済にも大きな影響を与えました。

昨年11月には世界遺産暫定リストに記載されましたが、平成29年を目標に登録を目指しています。

3. 世界重要農業資産システム(ジラス)認定

金山による鉱業社会が生み出した貨幣社会の中で、小規模でも存在できた佐渡の農業は、農業を控えた結果、生物のあふれる稲田が残し、トキの最後の生息地となりました。

トキの放鳥を契機に、環境に配慮した栽培基準に基づいて栽培、認証する「朱鷺と暮らす郷米」が成功しました。今後は米以外の農産物へ制度を拡大する予定です。

6月11日に北京で開催されたジラスの選考委員会において、日本で初めて当市と石川県の能登半島が認定されました。この認定が他の2つの登録・認定の足がかりになると期待しています。なお、本認定の国内での呼称は「世界農業遺産」で統一することになりました。

◇新・ご当地グルメ「佐渡天然プリカツ丼」!

「エコアイランド佐渡」の取組は、この3世界遺産だけではなく、

佐渡へお越しの際は、まずは「佐渡天然プリカツ丼」を食べてみてください。



↑ 里田まいさんを「朱鷺と暮らす郷親善大使」に任命(佐渡の米作りや認証米のPR活動に協力中)

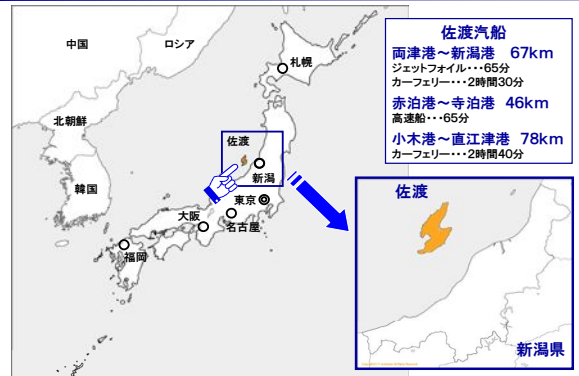
大量の金銀を産出し、江戸幕府の重要な財源となった佐渡鉱山は、金銀の採掘のため、山を削り続けた歴史がある一方、佐渡の森林を奉行所用材等として厳しく守ってきた歴史もあります。

伐採を禁じられた山には、多くの森が残り、杉の巨大林を形成しています。

風雪に耐え、屈曲したものなど、特異な自然環境が育んだ杉の巨木が林立する原生林を専門ガイドが案内するエコツアーなども好評です。



↑ 洞爺湖サミットの晩餐会会場に展示された「金剛杉」



面積	855km ²
広ぼう	東西の長さ 33km 南北の長さ 60km
海岸線	280km
人口	H15年 H22年 7.1万人 → 6.3万人
高齢化率	H15年 H22年 33.8% → 36.8%
合計特殊出生率	H15年 H21年 1.67% → 2.01%
市内総生産額	H13年 H20年 2,481億円 → 1,972億円



◇佐渡の初夏～コブダイの恋の季節～

海を見れば、映画「オーシャンズ」やNHK「ダーウィンが来た!」にも登場したコブダイが大きなコブを見せて頑張っています。

佐渡を訪れるダイバーに人気です。初夏はコブダイの恋の季節で、ペアリングが見られる可能性もあります。

◇日本一の「カンゾウ」の大群生地

佐渡の北端では、日本一の「カンゾウ」の大群生地が6月から7月の佐渡島を飾ります。

市の花でもあるカンゾウは、地元では「ヨウラメ」(「ヨウ」は魚、「ラメ」は卵をはらむこと)と呼ばれ、親しまれています。

◇「美しく環境にやさしい島」への取り組み-①スポーツ・ツーリズム-

「美しく環境にやさしい島」として環境保全を前面に打ち出したスポーツ・ツーリズムや芸術イベントも盛り上がり、定着しています。

毎年約2千人が出場する佐渡国際トライアスロン大会は、今年で23回目を迎え、島全体が一つとなって賑わいを見せます。

また、これまでも数多くの著名人が出場しましたが、今年は、日本一過酷な大会として、日本テレビの番組「行列のできる法律相談所」からタレントが参戦します。

-②芸術イベント-

佐渡を拠点に世界で活躍する和太鼓集団「鼓童」のライブが行われるアースセレブレーションは、今年で24回目を迎えます。

国内外から約2万人が来島し、環境をうたう佐渡最大のイベントとして国際交流にも大きく貢献しています。



ダイバーは私たちではありません(笑) ↑



大岩塊「大野亀」のトビシマカンゾウは日本一 ↑



◇最後に～佐渡のシンボル「トキ」～

最後にご紹介するのは、やはり佐渡のシンボル「トキ」です。

昨年実現しなかった放鳥トキのペアに、今年もヒナ誕生が期待されていますが、なかなか厳しいようです。

今年の3月に4回目の放鳥を終え、現在、島内には約30羽のトキが暮らしています。トキの森公園で見学できますが、佐渡の上空高く舞う野生のトキをドライブ中に発見できるかもしれません。

是非一度、佐渡にお越しください。



アースセレブレーション2011(8月19日～21日開催)



笠井でした ↑



東北OMのメーリングリストの中で、7月1日に木村彩香さんから投稿のあった内容を改めてお知らせします。

学生たちが中心となって起こす復興への行動。ぜひ、皆さんも参加してみませんか。

何かボランティアをしたい、
自分にできることはなんだろう…と考えている方へ！

第1回 東北復興ボランティア・プロジェクトフェア

夏以降のボランティア・プロジェクト参加者の募集を行うNPO・企業・学生団体と、ボランティアに興味があるという学生を一同に集め、大規模なボランティアの説明会を開催します。

今回のイベントでは、様々な復興支援プロジェクトを持つ団体を約20団体集めました。

(例:復興支援を行う若者に取材してYou Tubeで放送する(復興TV)、被災地で必要とされている情報を集めて伝える(つなプロ)、夏休みを利用して子供の学習をサポート(Learning for all)、毎週日曜日に被災農地の片付け作業(みまもり隊)など。

当日は説明会の他、講演会、ボランティア経験者の声、懇親会といったプログラムをご用意しております。夏以降のボランティア活動を県内の学生から盛り上げていきましょう。

□日時:7月9日(土)

□会場:仙台国際センター 大会議室「萩」

□時間:14:00~18:00

□内容

200名限定!

(1部)14:00~15:20

・講演会 ・学生の現場経験者の声

(2部)15:30~18:00

・各団体よりプロジェクト説明 ・ブース交流会

(懇親会)18:30~19:30

・大人の現場経験者の声、出し物

□イベント詳細・申込み

http://www.wakatsuku.jp/?page_id=1266

入場無料



実行委員長:木村彩香さん
(東北学院大2年)

OMの 素材



№334 児玉 寛希

Hiroki Kodama



- ◆1986年4月19日生まれ
(シャラポワと同じ誕生日です。)
- ◆秋田県男鹿市(旧若美町)出身
(元プロ野球選手の落合と同じ町内です。)

- ◆所属 秋田県庁 仙北地域振興局
農林部 農村整備第一課

◆経歴

秋田高専(環境都市工学科)で5年間を過ごしたのち、新潟県にある長岡技術科学大学(環境システム工学)に編入学し、大学院までの4年間を長岡市で過ごす。都市計画を専攻し、「計画は計画通りに進まない」事を学ぶ(笑)。ちなみに研究内容は、固定資産税の視点から都市構造を考えるというものでした。生まれ育った秋田を元気にしたいと考え、秋田県庁(採用区分は総合土木)に就職。

◆趣味・特技・特徴

野球、スノーボード、スケボー、素潜り、少林寺拳法(一応段持ち)、麻雀など。とにかく体を動かす事が大好きです。

あと、秋田でたまに、ナマハゲしてます(大晦日に民家に侵入してお酒飲みます。最近はその子化で「泣ぐ子」がいまません。)

他には、ギャンブル好き・タバコ・酒好きと三大マイナス要素をもっております(笑)。ギャンブルは卒業しました。タバコは、本数減らします(汗)。酒は……やめられませんが、みなさんと盃をかわす事を楽しみにしております。

◆一言

東北OMとのファーストコンタクトは、学生時代でした。福島県庁の大波司麻さんにその存在を教えてもらい、ビビッときました(大波さんの熱意に感銘を受けました)。それから間もなく入庁し、さっそく入会させていただきました。

OMを通じて、視野を広げ、新たな出会いを楽しみたいです。意識の高い皆さんから刺激をもらい、自己の成長に繋げていきたいと考えております。

世間知らずな青二才ですが、これからよろしくお願いします。



№178 中嶋結也 & 静香

Yuya & Shizuka

中嶋結也(右)

- ◆所属 秋田県教育庁総務課
- ◆経歴 1983年10月8日秋田県秋田市生まれ、07年入庁(5年目)
- ◆一言 ひょんなことから東北OMに参加しましたが、人は出会いによって作られ、能力を引き出されるものだと感じています。秋田勉強会での出会いが皆様にとってかけがえのないものとなることを心から望んでいます。

趣味はお酒とおつまみづくり。

中嶋静香(左)

- ◆所属 由利地域振興局総務経理課
- ◆経歴 1988年4月26日秋田県由利本荘市生まれ、08年入庁(4年目)
- ◆一言 秋田勉強会からOMの活動に参加しました。まちづくり活動は全くの初心者ですが、皆様のご指導ご鞭撻により成長していきたいと考えています。

趣味はダイエット。



№252 後藤 彩夏

Ayaka Goto

- ◆平成元年7月11日
山形県山形市生まれ

- ◆山形大学人文学部法経政策学科4年
公共政策コース 財政学演習所属

山形西高卒で中学・高校と陸上部で走り高跳びをしていました。



現在大学4年生で就活中ですが、JCC、学生団体キッカケの東北支部、それから素潜り魚突きサークルAQA-LIFEに所属しています。

JCC で个性的でバイタリティーあふれる先輩方と学生よりも若々しくエネルギー溢る山形青年会議所のおじ様方と共に山形大花火に携わり、キッカケでは様々な活動している全国の学生に出会い、イキイキのきっかけを届けるべくセミナーや交流会などのイベントを行っています。また、AQUA-LIFEでは去年、一昨年と4月の極寒の鶴岡の海に潜りました！

たくさんの人、ものとの出会いによって学ぶことができ、成長できています。

◆一言

今までずっと山形で過ごし、これからも山形にいたいと思うからこそ、広くたくさんの人とつながり広い視野を持つことが大切だと思っています。

きちんと就職先を決め、OMに参加して熱い想いを持っていらっしゃる皆さんのお話を聞き、刺激を受けて私も東北・山形をもっともっと愛される街にしていきたいです。

そして、何年か先に私の子どもが「山形大好き！山形に生まれてよかった！」と思ってくれることが夢です！

№278 土屋 朋代

Tomoyo Tsuchiya

- ◆所属 長井市商工振興課(商業労政係)
- ◆生年月日 1986年12月16日

- ◆経歴 H14: 地元の工業高校に入学。3年間で色々な所へ行き、出会い体験したことで、地域にある文化の面白さや人の温かさを残していきたいと感じるようになる。

H17~大学時代を千葉で過ごす。ゼミで行った商店街や地域でのフィールドワークを通して地域計画の面白さと難しさを学ぶ。ついでお酒の楽しさも学ぶ。

H21 市役所入庁。現在3年目。ひよっこです。

◆東北OMのみなさまへ

こんにちは！去年から入会させてもらい、OMの勉強会へは2回くらいしか参加できていませんので、知っていらっしゃる方の方が少ないかもしれません。…が、毎日多くの皆さんからのメールを見て、特に震災からの復興に向けて「私にでも何かできることはないのか」と刺激を受けて考えています。

これからも皆さんとたくさん勉強させてください。どうぞ、よろしくお願いします。





№280 滝本 法明
Noriaki Takimoto

- ◆生年月日：1970年5月1日生(41歳)
- ◆所 属：秋田県庁 がん対策室
- ◆資 格：薬剤師
- ◆ニックネーム：ここ数年、複数の上司から「ハンドルの壊れたボルシェ」と呼ばれています。

自覚症状がないので「壊れている部分は治したい」と私が言うと、上司から「当分、そのままでもいい」と返されました。(壊れたままでいいのか、俺?)

◆ひとこと

この7月末に、秋田の感染症対策が論文として発行されます。
(N. Takimoto, et al. Jpn. J. Infect. Dis., vol.64, no.4, 2011)
感染力の高い感染症のアウトブレイクを国、県、市町村、教育委員会、民間会社が協働して速やかに征圧した実例を検証しました。
秋田のソーシャルキャピタルの高さがわかります。

◆東北OMの皆様へ

異分野、他業種の人と一緒に学びながら、秋田～東北～日本を元気にしたいと思っています。どうぞよろしくお願いします！

№230 今野 透
Toru Konno



■経歴：

- 長井市生まれ、岐阜県經由長井市育ち
- H15 長井市役所入庁(教育委員会 文化生涯学習課)
- H17 財政課
- H19 山形県庁工業振興課(2年間の人事交流)
- H21 商工観光課(H23より商工振興課に改組)

■学生時代は古文書を読んで歴史の研究に没頭する日々だったので、東京から地元に戻り、役所に入って早9年になりました。

県庁時代に自動車産業の振興に携わり、そこでカイゼンやQC活動に触れたことで抱いた「役所ももっと変わっていけるはず！」という想い。

その想いを共有できる仲間とともに、昨年4月から庁内で自主勉強会を立ち上げ、その勢いでOMにも参加しています。

「全員20代」がウリの勉強会だったのですが、私だけは今年30歳になりました(笑)でも、増えたのは年齢だけではありません。メンバーは1年間で、なんと倍増！(4人→8人)

今は8人で気楽にまじめに楽しく活動しています。

■これからもOMの皆さんと交流して、モチベーションを高めていきたいとします。

なお、懇親会ですぐに顔を真っ赤にしている奴がいたら、それは間違いなく私です(笑)

今後ともよろしくお願いします。

特命Report

地元の米、水、蔵元、
そして絆で造る柏倉門傳
西山形の酒を造る会「田植え作業」

5月29日、西山形地区で「柏倉門傳」の酒米「出羽燦々」の田植え作業が行なわれました。

地元の酒好きが集まり、美味しい地元の酒が飲みたいという想いから始まったこの「西山形の酒を造る会」の活動も7年目を迎えました。

この会との交流をきっかけに、今年も多くの東北OMメンバーが参加するとともに、山形県国際交流員の方々の参加もあり、大いに盛り上がったようですね。



『西山形地区の魅力を発見!!』 山形市役所 荒井 佑梨江さん

近所に田んぼはあっても足を踏み入れることなんてなかったので、貴重な経験でした。自分の手植え分は1列程でしたが、それでもなかなか前に進まず、大変さを実感しました。でも、初めて裸足で入る田んぼの不思議な感触にテンションが上がりました。心なしか肌もツルツルになったような気がします。西山形のお酒を造る会の存在を知り、また1つ世界が広がった気がします。自分で植えたお米からできる日本酒を飲むのが今から楽しみです。

酒造りを通した地域・人のつながりをこれからも大切にしていきたい

山形市役所 森 俊さん

今年はOMメンバーのほか山形県国際交流員(海外メンバー)も参加し国際色豊か。「西山形に外国人がやってくる!」そんな騒ぎに発展したか定かではありませんが。(笑)

皆さんの流暢な日本語でのスピーチと飲みっぷりの良さに、地元の方々とすぐに意気投合。大盛り上がりでした。地元の方々からは、こうした地区外の若者との交流によって様々な気づき・刺激をもらえると歓迎していただき、また私達は普段機会がない田植え・稲刈りを体験でき、おいしいお酒が飲める。こうした酒造りを通した地域・人のつながりをこれからも大切にしていきたいと思っています。

9月の収穫が楽しみ!

山形市役所 伊藤和美さん

西山形の酒の源! 田植えをしてきました。以前稲刈りを経験していたので、この小さな苗があんなに大きくなるのかとしみじみ思いながら、植えておりました。

OMの勉強会で講演していただいた木村俊昭さんが、子供達に田植えを体験させるのであれば、まず稲刈りから始めた方が収穫の喜びを知った後なので、田植えも楽しくできると話しており、確かにその順番で体験した方が倍楽しく、何より愛情を持って取り組めるなど実感しました。

9月の収穫が楽しみです。

西山形の誇り、酒米、湧水、そして人の心が醸す酒「柏倉門傳」

山形市役所 後藤好邦さん

昨年に引き続き、その酒米づくりの第一弾「田植え」に参加。昨年の経験が活き、田んぼの感触にも動じず、昨年よりも効率的に稲の根付を完了。

しかし、慣れに関係なく、腰の痛さに変化なし。その痛みを通して、昔の人々の苦労を垣間見る。この苗が順調に夏を越し、秋には豊かな稲穂となることを願いつつ、豊作祈願祭で地元の方々々と杯を交わす。

美味し酒に、温かき人の心。地域の豊かさを感じる一日だった。

楽しい新酒発表会

酒田市役所 本間義紀さん

西山形のみなさんとは、約半年振りの再会。前回は私の記憶が飛ぶほどにお世話になっており『失礼なことやっちゃってたら…』という心配もあり、少し緊張。

山形メンバーやアレックスたちに紛れて田植えを始めようとした時、『パチャーン！パチャーン』と苗を蒔く音。小学生の時から田んぼの心地よさが西山形のみなさんと重なり、その後の『さなぶり』と合わせて、ほんわかとした温かさに包まれた一日だった。半年後の新酒発表会が早くも待ち遠しい。

Planting Rice in Yamagata

山形県国際交流員 Alex Ciorba(アメリカ)

日本のキーワードといえば、「米」がすぐ思い浮かぶ。お米は昔から日本人にとってとても大事なもので、日本の文化に興味のある僕は田植えに誘われた時は「是非！」とすぐ言った。当日は田植え日和だということだったが、その天気は晴れではなく、意外なことに小雨。裸足で泥に入って、苗を手で植えたら、すぐ土と自然と親近感を感じた。

秋に稲刈りをやり、お酒も作る予定だ。一年間を通じて日本の伝統的な文化を体験する機会があって本当に良かったと思う。

これから もっと山形の魅力にハマりた〜い！

山形県国際交流員 金正埜(大韓民国)

初めての田植えだったし雨も降ったし、それに裸足でやって泥足になったのですが、とても楽しかったです！いまだに、その足の感覚が忘れられないです。

田植えが終わってからは、地域の方々と触れ合う時間がありましたが、みなさん本当にやさしい方ばかり。その地域の米で造った「柏倉門傳」という日本酒も用意してくれましたが、残念ながら私は日本酒が飲めません。でも、「柏倉門傳」は確かに美味しかったです。

ちなみに私はプレミアムモルツが大好きです。覚えてくれたら嬉しいです(^^)

山形に来てまだ2ヶ月しか経っていませんが、もうすっかり山形のとりこになりました。これからもっと山形の魅力にはまりたいと思っています。ではでは、みなさん〜もつけどの〜！

肝心の柏倉門伝を味わえなかったのが心残り

山形県庁国際室 永井 健さん

朝から雨で、参加を希望したことをちよつと後悔。「面倒くさいの〜」と思ったが、小雨の方が田植え日和なのだとか。ならば仕方ない。田んぼの泥に入るのも、手植えをするのも二十数年ぶり。裸足で泥の中を歩くのはやはり久しぶりだが、健康には良さそう。

しかし、みんなの写真を撮ることに精を出すあまり、肝心の田植えは、1列の半分くらいしか植えなかったかな。ちょっと物足りない感じが、3時間も4時間も田植えを続けたら、きっと嫌になるだろう。

田植えの後は、豊作祈願の直会。まさしく「地元の酒盛り」の雰囲気ですごく良かった。車で来ていたので肝心の酒を味わえなかったのが心残り。稲刈りの時には心置きなく飲もう。



お米は東北文化の一部だと気付いた！

山形県国際交流員 Jasmine Li(カナダ)

初めて田んぼを見たときのことを良く覚えている。

それは、去年の夏、山形空港から山形市に向かっていくときだった。車の窓から一面に広がる田んぼとその周りの山を見たとき、「思ったより田舎に来てしまったな〜」ということ私はしっかりと噛み締めた。

去年の秋、稲刈りの風景を山形県内のあちこちで見かけた。黄金色の稲の中で農民たちが一生懸命働く姿がとても強く心に焼きついた。その時期に「つや姫」がデビューして、初めてスーパーでつや姫を買ったときの喜びも良く覚えている。地元で育てられたお米を食べることにすごく誇りを感じたのだ。

お米は東北文化の一部だということに気付いた。今回の田植えによって、自分がもっと「山形人」になったような感じがした。自分で耕した稲がお米になり、お酒となって売られることを考えると本当にわくわくしてくる。

仕事へのきめ細かさに日本人の心を感じる

山形県庁国際室 沼沢 昭宏さん

山形に生まれ、山形に育ち、周りは田んぼに囲まれている……。

そんな中で暮らしてきたにも関わらず、今回が初めての田植え体験でした。初めて素足で入った田んぼは、思ったよりも深く、なんとも心地よい感触。

苗を植える場所には、あらかじめ、「コロガシ」と呼ばれる道具で跡がつけられており、その目印どおりに植えていけば、苗による美しい直線が描かれます。このような仕事に対するきめ細かさに、改めて日本人の心を感じました。

秋の稲刈り、その米で作った日本酒の仕込みが、今から待ち遠しいです。田植えを終えてふと振り返れば、一生懸命植えた私の苗は、見事なジグザグを描いていました。

豊饒の喜びを見つめ直して

山形県庁国際室 五十嵐 健裕さん

東北の厳しい冬が明け、春を迎え、初夏へ。山は白から群青、そして眩しい緑に。田んぼも黒から緑へ。毎年繰返す風景が、今年ほど「ありがたい」と思った年はない。

人は「人の手の入った自然」が好きなのだろう。クヌギ林、里山、田んぼ……。そんな恵みを与えてくれる豊かな財産が毎年失われつつある。年々地方の産業を巡る環境は厳しくなり、僕らを迎え入れてくれた地域の優しい笑顔は毎年シワが深くなっていく。僕らには一体どれだけのことができるのだろうか。

豊饒の秋となれば山は紅葉色に、田は黄金色に装いを変える。そして、一面銀世界になる頃、農村で営まれた努力や笑顔の結晶が、琥珀色になって樽から注ぎ出る。

失われていく、と嘆くだけでいいのか。それじゃ寂しい。人生つまらない。楽しい仲間、初めて作るお酒。豊かな財産を増やしていこう。そう感じた一日だった。

End roll

真夏日が続く、仕事が終わった後のビールがたまらなく旨い季節になりました。ついいつもより余計飲んでしまい、肝機能への負担がじんわりと感じる今日この頃です。

今月号では、東北OM初の秋田進出に向けて秋田メンバーの皆さんから秋田の魅力を紹介していただき、秋田の魅力を再発見しました。次回号でも更に別メンバーのオススメを紹介していただくということで楽しみです。本間さん・モトジークンもまた登場してくれるのでしょうか(笑)

その他にもこれまで定期的に掲載してきたコーナーを再び掲載することができました。これぞOMニュースレターです！ホント、久々に好き勝手に編集させていただき、ホント楽しかったですねえ。こんなニュースレターでも掲載してほしい！という方がいれば、ぜひご連絡ください(笑)(Newsletter編集部:栗原市 鈴木 敬)